

# 付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成26年11月5～18日に陸奥湾6定点で第8回付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4～9月は久栗坂・川内のみ

## 1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1のとおりで、青森市奥内沖で11/18に2.5個/トン、久栗坂沖で11/5に12.8個/トン、11/17に4.9個/トン、小湊沖で11/18に1.3個/トンでした。他の地区では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2のとおりで、久栗坂沖で11/5に0.6個/トンで、他の地区では見られませんでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。(キヌマトイガイラーバは年明け以降まで出現しないと思われます)なお、11/17に久栗坂沖でマゴヤラーバが0.6個/トン見られました。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
蟹田沖	H26.11.18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H26.11.18	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H26.11.5	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H26.11.17	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0
小湊沖	H26.11.18	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	H26.11.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H26.11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H26.11.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

## 2 水温の状況

各ブイの11月19日の平均水温は、表2のとおりです。

## 3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバは、西湾で昨年より多く見られていますが(※)現在は減少して来ており、養殖施設に付着しているユウレイボヤも脱落してきていますので、10月下旬～11月中旬が今年のラーバの発生と付着のピークであったものと思われます。(※過去の調査結果では平成18,19年の同時期に20個/トン以上のラーバが見られています。)

また、オベリア類のクラゲが散発的に見られるようになりましたが、春先に付着被害を及ぼす種は、今後、冬にかけてクラゲが出現すると思われるので注意して行く必要があります。

養殖施設のネンエキボヤは、今までの観察から、10月中旬頃からラーバが発生・付着し今は群体が小さいので肉眼で見つけにくい状態にあるものと思われ、今後継続して観察して行きます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(12月上旬発行予定)の情報を参考にしてください。



写真1 ユウレイボヤの浮遊幼生



写真2 オベリア類のクラゲ

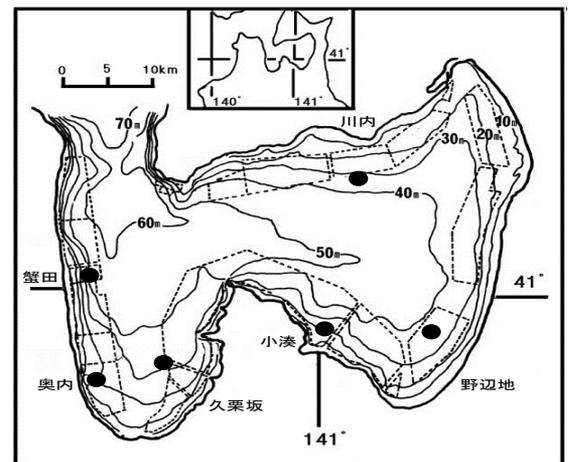


図3 ラーバ調査地点

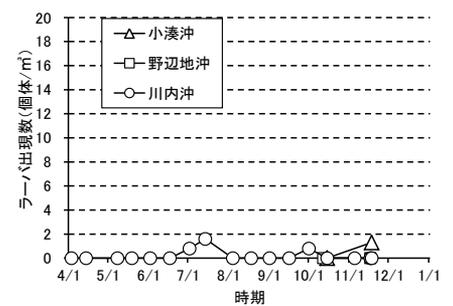
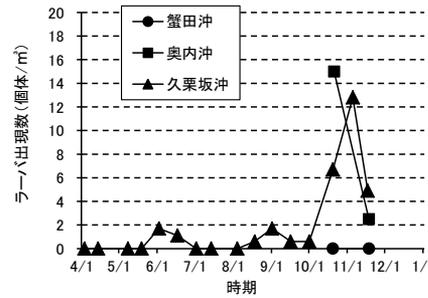


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

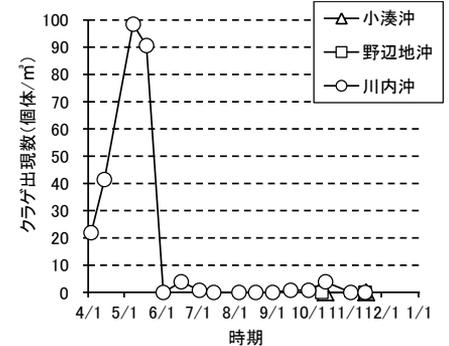
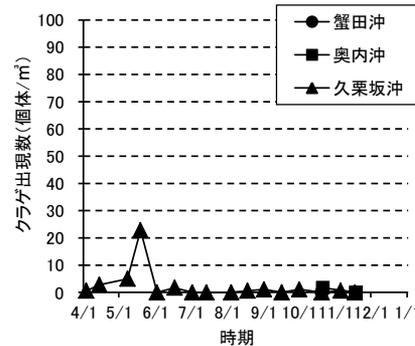


図2 オベリア類(通称クサ)のクラゲ出現数の推移

表2 各ブイの中層における日平均水温(11/19)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	16.0	東田沢ブイ		横浜ブイ	
蓬田ブイ		清水川ブイ		浜奥内ブイ	12.6
奥内ブイ		野辺地ブイ	12.8	川内ブイ	
青森ブイ	14.3	東湾ブイ	13.2	脇野沢ブイ	
浦田ブイ					

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

